

令和4年度 病害虫発生予察 特殊報 第1号

病害虫名： ギンバイカ褐斑病（仮称）

病原： *Calonectria pauciramosa* C.L. Schoch & Crous

対象： ギンバイカ

1 病害虫情報の内容

Calonectria pauciramosa（以下、*C. pauciramosa*）によるギンバイカ褐斑病（仮称）の東京都内での発生を確認した。*C. pauciramosa*によるギンバイカの病害発生は国内未報告である。

2 発生経過

- 令和3年7月、都内多摩地域の緑化植物生産ほ場（施設）において、ギンバイカ及び斑入りギンバイカのポット苗の葉に赤褐色の斑点の発生を確認した。
- 症状より分離された糸状菌について病原性を確認した後、法政大学植物医科学センターに同定を依頼したところ、*C. pauciramosa*による病害であることが判明した。

3 病徴及び病原菌の特徴

- 葉に赤褐色の小斑点を生じ（図1）、やがて、個々の小斑点は拡大する（図2）と共に、小斑点の発生が株全体に広がる。その後は、落葉や枝枯れを引き起こし、さらに症状が進展すると株の枯死に至る（図3）。
- 発生ほ場では、斑入りギンバイカでの発生が多い。
- C. pauciramosa* はアカシア属をはじめユーカリ属、ツツジ属、サクラ属など19属の木本及び草本植物を広範囲に犯す多犯性菌である。本菌による病害は、平成19年に輸入検疫でオランダ産ハリアカシア苗の葉及び茎から発見されているが（大井ら、2009）、国内生産ほ場での発生は報告されていない。

4 防除対策

- ギンバイカにおいて本病に登録のある薬剤は無い。
- 高温多湿を避けて栽培するとともに、罹病株の早期発見に努める。
- 発生時には罹病株をできるだけ早期に除去し、ほ場周辺に残さないよう適切に処分する。
- 発生ほ場で使用した資材は、消毒を十分に行う。
- 挿し木により育苗する際には、無病の木から穂木を採取する。

5 参考文献

大井明大ら（2009）植物防疫所調査研究報告 45:49-52



図1 小斑点の発生



図2 病斑の拡大



図3 落葉、枝枯れ、株の枯死